

富山昌徳 まむのり キリス下教傳道者、水戸學研究家。明治二十七年十一月十八日茨城縣那珂郡靜村生れ、昭和二十四年十月七日歿（一九〇一先）。上京して日本大學に學ぶと、病を獲て歸郷、凡そ三年福島縣平市ついでらで療養、小田部莊三郎の深呼吸療法で克服した體験を、のち一書として著した（『療養の大道』昭和十五年刊）。その後精神的苦惱から半ばは無錢徒步で九州に渡り、殆どを徒步で九州中を巡つた。昭和七年頃水戸に赴き水戸學を研究、また市内のキリス下教教會を歴訪して無教會主義を知り、雑誌『希望の日本』を、次で『來世の信仰』（昭和八年九月一日創刊、十二年一月『感謝思想』と改題）を出して個人傳道に勵んだ。その間『信仰ダイアリー』、『聖書より觀たる水戸學の本質』（昭和十一年刊）を著すも、後者は發賣禁止處分を受けた。他に『水戸精神の新展開』と題して三巻本を書き上げたが、空襲で出版社諸共焼失。戰時中は個人傳道の困難から、大東亞出版社、旺文社に勤務。

戰後病が再發して療養生活に入りだが、自宅で集會を開き、子供達のための日曜學校を設け、『物語イエム伝』、『日曜學校童話集』等を著作刊行。晩年は日本佛教に與へた景教の影響に就いて研究、『日本史のなかの佛教と景教』（昭和四十四年十月七日千葉・富山と刊）を遺した。